

水稻の作柄に関する委員会（令和２年度第１回）議事概要

- 1 開催日時：令和２年９月９日（水） 13:30～14:40
- 2 開催場所：農林水産省 大臣官房統計部第１会議室
- 3 出席者：【委員】雨宮宏司座長、荒井裕見子委員、大川泰一郎委員、
萱場互起委員、黒田栄喜委員、山岸順子委員、吉永悟志委員
【事務局】大臣官房統計部長、生産流通消費統計課長 ほか
- 4 議事
令和２年産水稻の８月15日現在における作柄概況及び次回調査の実施に当たっての留意事項について
- 5 議事概要（○：委員からの発言）
事務局から令和２年産水稻の８月15日現在における作柄概況調査の結果、本年の気象の推移等について説明後、各委員から意見・提言を受けた。
 - 気温・日照時間は、６月までは平年を上回って推移し、７月は北海道を除き低温・日照不足となったものの、８月以降は天候が回復し、気温・日照時間ともに平年を上回って推移した。
今後１か月程度の天候の見通しでは、気温については高い、日照時間については平年並みと予想されている。
また、７月の長雨や豪雨、９月の台風に見舞われた地域があった。
 - ７月の低温・日照不足、８月以降の高温と変動の大きい気象が、早場地帯や遅場地帯ごとの生育ステージの違いによって、穂数、もみ数、登熟、品質等への影響が懸念される。
 - ７月の低温・日照不足等による穂数・もみ数等への影響、８月以降の高温による、登熟、品質等への影響が懸念される。
 - 令和２年７月豪雨、９月の台風等による冠水・倒伏等の被害、また、台風に伴うフェーン現象による白穂の発生と粒厚、外觀品質への影響について留意する必要がある。また、今後の台風等による集中豪雨等が作柄へ与える影響にも留意する必要がある。
 - 病虫害については、いもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類等の発生が多いと予想されている地域においては、その発生状況に留意する必要がある。
 - 本年の水稻の出穂状況は、一部で遅い地域もあるが、全般的にはおおむね平年並みと見込まれることから、次回のもみ数確定期調査は、例年どおり９月15日現在とすることが適当である。

以上の意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。
(https://www.maff.go.jp/j/study/suito_sakugara/attach/pdf/index-13.pdf)